

関連イベント

企画展関連講演会

「近代都市静岡としずてつ」

江戸時代に城下町だった静岡や、清水湊を中心に商業が発達していた清水では、明治時代になると商工業が順調に発展しました。産業の発展と静岡鉄道との関係を解き明かします。

2024 **8.17** 土 13:30~15:00 (開場12:30) **参加無料**

会場/ 葵生涯学習センター(アイセル21)1階ホール (静岡市葵区東草深町)
定員/ 150人(全席自由)
講師/ 沼尻 晃伸さん(立教大学 文学部教授)
参加申込/ 7月6日(土)10:00~ (申込順) 静岡市歴史博物館ホームページ申込フォームで先行受付
7月12日(金)10:00~ 静岡市歴史博物館(054-204-1005)で電話受付

博物館交流ひろば

申込不要
参加費無料

わかりやすい 歴史・地域のおはなし

7月28日(日)13:30~14:30
「清水からはじまった、お茶の鉄道「静岡鉄道」」

江戸時代からお茶の集積地だった安西(旧静岡市)と物流の出入口、清水港。もともとはお茶を運び、輸出するために敷設がはじまった静岡鉄道は、どのように変化したのでしょうか?

8月10日(土)13:30~14:30
「意外と知らない
静岡鉄道の生い立ちと沿線開発」

今から約100年前に誕生した静岡鉄道。静鉄グループ百年史の編纂を担当した講師が、静岡鉄道の誕生秘話を語ります。
講師/ 扇 英樹さん(元静岡鉄道株式会社 百年史編纂担当)

9月1日(日)13:30~14:30
「百貨店(デパート)の誕生」

都市文化の象徴である百貨店。静岡にできた、松坂屋、田中屋・伊勢丹、西武などのデパートをめぐるおはなし。

学芸員のマニアックトーク

7月6日(土)13:30~15:00
「狐ヶ崎遊園からヤングランドへ
~鉄道経営と沿線開発~」

狐ヶ崎に静岡鉄道が設けた遊園地がありました。このような沿線開発について、かつて鉄道経営のモデルが存在したことを紹介します。



空から見た狐ヶ崎ヤングランド (提供/静岡鉄道株式会社)

8月18日(日)13:30~15:00
「くまモンと一緒に走れ! しずてつ」

しずてつの主力として活躍した1000形車両が、今は熊本の地で、第二の人生を送っています。懐かしい車両が元気に活躍する熊本と静岡の意外な関係に迫ります。

夏休み子ども博物館

子どもたち向けのわかりやすいトークと工作

8月3日(土)10:45~11:15

【おはなし】「しずてつの駅をたどってみよう!」
静岡鉄道の昔と今の駅をくらべながら紹介します。

8月3日(土)、4日(日)13:30~15:30受付

【工作】「ペーパークラフトでんしゃ」
静岡市内を走っていた電車をモチーフにした紙の電車をつくります。



博物館への道

JR静岡駅から博物館まで
実際に「歩いてみた」動画はコチラ!



交通アクセス
JRをご利用の場合
「静岡駅」下車、北口から
●徒歩15分、タクシーで約10分
●駿府浪漫バス(10番乗り場)で「東御門」下車すぐ
●しずてつジャストラインバス「県庁・静岡市役所葵区役所前」下車 徒歩6分

静岡鉄道をご利用の場合

●「新静岡駅」から 徒歩8分

富士山静岡空港をご利用の場合

●空港からしずてつジャストラインバス
富士山静岡空港静岡線「新静岡」下車 徒歩8分

静岡市歴史博物館
Shizuoka City Museum of History

静岡市葵区追手町4番16号 電話:054-204-1005
ホームページ: <https://scmh.jp> FAX:054-204-7373
指定管理者 公益財団法人静岡市文化振興財団



静岡市歴史博物館 企画展



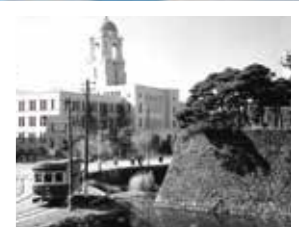
静岡鉄道の機関車(提供/静岡鉄道株式会社)



仲浜町付近を走る清水市内線 (当館所蔵 海野幸正氏撮影)



新静岡センター開店時の店内の様子(提供/静岡鉄道株式会社)



外堀に沿って走る静岡市内線 (当館所蔵 海野幸正氏撮影)



新静岡センター(提供/静岡鉄道株式会社)

高度成長と静岡

走れ! しずてつ

Keep running! Shizutetsu!



提供/静岡鉄道株式会社

2024 **7.6** 土 **9.1** 日 | 静岡市歴史博物館
3階企画展示室

開館時間/ 9時~18時(展示室への入場は閉館30分前まで)

休館日/ 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館) ※8/13(火)は臨時開館

観覧料/ 一般 750円、高校生・大学生・静岡市内70歳以上 520円、小中学生 180円
未就学児、静岡市内在住・通学の小中学生は無料

※基本展示もあわせてご覧いただけます。※20人以上は団体料金あり。
※障害者手帳をお持ちの方と介助者1人は無料。※「一般」以外の方は身分証明書等をお持ちください。

静岡市歴史博物館
Shizuoka City Museum of History

走れ!しずてつ

静岡の地域交通を担ってきた静岡鉄道。

その歴史は、明治時代に始まり、日本の近代化に伴い発展した静岡を支えてきました。

静岡鉄道は、静岡茶を清水港から海外に輸出するため、茶の集積地である安西と清水港を結ぶことを目的として建設されました。

一方静岡及び清水の市街地での人口増加に伴い、次第に旅客輸送の重要性も増しました。

1929年に静岡市内線、1933年には、清水市内線の二つの路面電車が新たに開通し、

静岡と清水の二都市間を連絡する静岡鉄道が形作られました。

時代の流れの中で、路面電車は姿を消しましたが、静岡鉄道は、今も静岡と清水を結んでいます。

静岡鉄道の歩みを通して、特に戦後の高度成長がもたらした

人々の暮らしや街の景観が大きく変貌した静岡の歴史を探ります。



POINT “三社参り”のひとつに数えられた静岡浅間神社。美しい楼門は必見です!

詳しくはコチラ

安西

静岡浅間神社

駿府城公園

静岡市歴史博物館

北街道

清水寺

華陽院

中町停留所

静岡市内線 1929年～1962年

POINT 長沼駅のホームから長沼車庫が見えます。最新の車両の他にかつて走行していた車両も見えるかも?!

静岡縣護国神社 “三社参り”のひとつに数えられた神社です。

県総合運動場駅の西側でJR東海道本線、JR東海道新幹線と交差するめずらしい光景が見られます。

長沼駅

JR東静岡駅

東海道本線

JR草薙駅

東名高速道路

POINT 県立美術館前駅は、静岡県立美術館の開館に合わせてつくられました。ホームにはロダンの「考える人」があり、電車とロダンの作品とのコラボレーションを見ることができます。

北原白秋自筆 歌詞原稿(ちゃっきりぶし) 1927(昭和2)年(静岡鉄道株式会社所蔵)

空から見た狐ヶ崎ヤングランド (提供/静岡鉄道株式会社)

県立美術館前駅

狐ヶ崎駅

東海道新幹線

POINT 桜橋駅から三保半島に伸びる路線が計画されたことがありました。

横砂停留所 (当館所蔵 菅勝成氏撮影)

駅名標(横砂) (静岡鉄道株式会社所蔵)

新清水駅

清水市内線 1933年～1975年

横砂

POINT かつて静岡市内線の停留所がありました。現在でもその痕跡を見ることができます。

新静岡駅

JR静岡駅 (旧国鉄静岡駅)

静岡清水線

県総合運動場駅

県立美術館前駅

狐ヶ崎駅

桜橋駅

新清水駅

江淨寺

JR清水駅

POINT 清水港の近代化に大きな貢献をした清水港テルファア。エスバルスドリームプラザの近くにあります。

清水港テルファア

エスバルスドリームプラザ

清水港テルファア(クレーン)について詳しくはコチラ

美濃輪稲荷神社 “三社参り”のひとつに数えられた神社です。

駿河湾

IV章 静岡鉄道を支え続けた1000形車両

1973(昭和48)年にさっそうとデビューしたのが1000形車両です。オールステンレス製の新車は静岡鉄道の近代化を象徴するものでした。地方鉄道が車両を新車で導入する事例は珍しく、静岡鉄道の並々ならぬ意気込みが感じられます。

1000形車両(提供/静岡鉄道株式会社)

V章 A3000形車両の登場

1000形車両に替わる主力車両として導入されたのが、A3000形車両です。「都会的なデザインに一押し、より魅力的な街づくりに貢献すること」をコンセプトにしています。

静岡草薙野球場 ナイター開始記念乗車券 (池上茂之氏所蔵)

A3000形車両(提供/静岡鉄道株式会社)

VI章 記念きっぷに見る静岡の歴史

草薙野球場は、1930(昭和5)年に静岡鉄道が建設しました。1934(昭和9)年11月20日に草薙野球場で開催された日米野球で、沢村栄治がメジャーリーグ選抜チームに対して8回で9三振を奪う好投をしたことが、今も伝えられています。記念きっぷから、静岡鉄道の歴史とともに、戦後史をたどることができます。戦後になって、静岡県により周辺の運動公園としての整備が進められる中で、野球場は老朽化により、1971(昭和46)年から全面改装され、この時に、内野スタンドとナイター設備が完成しました。

I章 静岡鉄道の明治・大正・昭和

静岡茶は、長旅による品質の劣化を防ぐために、茶箱に詰められ海外に輸出されました。茶箱の外側には茶箱絵が貼られ、カラフルに装飾されて、人びとの眼を楽しませました。輸出先は、米国が大半を占めました。



茶箱 (明治時代 当館所蔵)

II章 戦後の静岡と静岡鉄道

1927(昭和2)年の狐ヶ崎遊園の開園を記念して、そのテーマソングとして制作されたのが、ちゃっきりぶしです。静岡を代表する郷土民謡となるよう、北原白秋に作詞を依頼し、作曲を町田嘉章が担当しました。高度経済成長を果たした1968(昭和43)年に、狐ヶ崎遊園は狐ヶ崎ヤングランドとしてリニューアルオープンしました。デンマーク・コペンハーゲンの「チポリ公園」を模して造られ、ボウリング場に加えて、夏季はプール、冬季はスケートの営業も行い、多くの人びとで賑わいました。



北原白秋自筆 歌詞原稿(ちゃっきりぶし) 1927(昭和2)年(静岡鉄道株式会社所蔵)



空から見た狐ヶ崎ヤングランド (提供/静岡鉄道株式会社)

鉄道模型で電車を走らせよう!



コントローラーを使って、電車を動かしてみよう! これで君も電車の運転手だ!

体験の詳細はHPでお知らせします!



III章 七夕豪雨と清水市内線の廃止

1974(昭和49)年7月に静岡を襲った「七夕豪雨」により、静岡鉄道も大きな被害を受けました。特に清水市内線の被害は甚大なものがあり、多くの人びとはその存続を望んだにもかかわらず、最終的には廃線のやむなきに至りました。これにより、静岡の路面電車は姿を消すことになります。



横砂停留所 (当館所蔵 菅勝成氏撮影)



駅名標(横砂) (静岡鉄道株式会社所蔵)